

態からの検討ということで、長井市としてかわと道の駅というのは必要性あるのか、河川公園、緑地公園は必要性あるのかと、そういう基本的な部分から検討していただいたのが計画検討委員会で、今度設置します整備検討委員会は、具体的な施設です。基本設計を立てるための具体的な施設、グレードなどについて検討するための検討委員会でございます。

○蒲生光男議長 8番、大道寺 信議員。

○8番 大道寺 信議員 ということは、結局今までもそういうことでやったんだということですか。そこだけ聞かせて。

○蒲生光男議長 浅野敏明まち・住まい整備課長。

○浅野敏明まち・住まい整備課長 お答え申し上げます。

生涯学習プラザ運動公園につきましても、構想はコンサルを頼んでおりませんが、構想があって、その後に基本設計を立てました。その中で検討委員会を設置しまして、いろいろご意見を伺いながら基本設計をまとめて、最後に実施設計に移らせていただいております。以上です。

○蒲生光男議長 8番、大道寺 信議員。

○8番 大道寺 信議員 そういうことだということで、ちょっとこの間の7日のやつで聞いて不思議だなと思ったのはそういうことだということですから、それは一つわかりました。

時間ありませんので、基本的に言うと、結局今までは私ら議員としては、場所的にもやっぱり非常にいろいろ問題あるんじゃないですかって議論してきたんだけど、そこはあくまでも構想の中で議論しんだということであって、その中身というのはこれからと。だから、河川緑地公園も、市長がこういう構想だっていろいろ言われました。あるいは、こういうふうに駐車場は何台分こうだなんていうのを見せていただきましたけど、それは全く決まってねえんだと、構想だと。そのために、測量調査をしてから、今度、整備のやつをやって、それで正式に

決めていくと、こういうことなんでしょうか。

そうしますと、今まで議論してきたというのは、非常に不思議な議論になるんですが……。

(「結論から・・・」の声あり)

○8番 大道寺 信議員 いや、結論からって、結局私らが最初に3月に申し上げたのは、そこがやっぱり問題なんで、もう一度きちっとその辺は順序立ててやるべきじゃないですかっていうふうに申し上げたわけですが、時間ありませんのでね、これはこれでまたほかの議員も含めて、あるいは総括含めて、議論されると思いますけども、ぜひ私どもはもう一回、そうであればそういう視点で議論を深めていきたいと思えます。時間ありませんので、私の質問は以上で終わります。

○蒲生光男議長 ここで、昼食のため暫時休憩いたします。再開は午後1時といたします。

午後 0時02分 休憩

午後 1時00分 再開

○蒲生光男議長 休憩前に復し、午前に引き続き会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

## 我妻 昇議員の質問

○蒲生光男議長 次に、順位8番、議席番号7番、我妻 昇議員。

(7番我妻 昇議員登壇)

○7番 我妻 昇議員 よろしくお願ひいたします。午後になりまして、一層気温が高くなっているように思います。暑さをはね飛ばすべく、長井ダムとまなび館のお話をして、少し涼を感じ

じることができるのではないかなというふうに思っております。

それでは、9月定例会一般質問に当たり、通告しております大きく2点について質問をしてみますので、ご答弁のほどよろしくお願い申し上げます。

最初に、野川まなび館の利活用についてであります。

私たちの大きな自慢であり、「水のまち長井」のシンボルである長井ダムが完成し、早くも1年と半年がたちました。竣工式は大震災の影響で8カ月も遅れての開催でしたが、周辺住民に大きな恵みを与えてくれるダムとして、華々しいスタートを切ることができました。と同時に、私たちは、将来にわたり命の水を蓄え、水害から私たちを守り、水力発電というクリーンなエネルギーを供給し続けてくれるこの長井ダムを大切にしていかなければならない義務を負ったのだと思います。

日々の生活を安心して送ることができるのは、長井ダムが私たちの安全を保障してくれているからであります。日々恩恵をこうむっている我々周辺住民は、長井ダムに対して感謝や尊敬の念、愛着といった感情を持って、今以上にダムとその周辺環境を守り、育んでいくことが大切になってくるのではないのでしょうか。

私は、その拠点が野川まなび館だと思っております。ダムについての基本的な知識やこの地域ならではの自然環境の知識を学び、それをいかに守り利活用するかを考え、実践していく場所としてなくてはならない施設だと理解しております。まなび館の利活用は、ダムを守ること、つまり私たちの生活を守ることにつながるといっても大げさではないと思っているのであります。

まなび館周辺では、子供たちが動植物に触れ合ったり、夜空にきれいな星を眺めたり、雪遊びをしたりする姿があります。登山やトレッキ

ングに出発する大人たちの姿も見られます。百秋湖に遊覧船を浮かべて、市内外からお客さんを呼ぼうと挑戦をしている姿もあります。ダムの堤体では、市民の有志が大綱引きを企画しています。真冬のイベントも多く企画されております。これらの取り組みは、参加者にダムや周辺環境に対する愛着や大切に守り伝える気持ちを高めていくものではないのでしょうか。

したがって、その拠点であるまなび館をもっと充実したものにすべきであるとの観点から、以下質問をいたします。

まず、まなび館及び周辺の更地がこれまでどのような経過をたどってきたのか、現在どのような体制でまなび館が運営されているのかを企画調整課長に伺います。

また、当初予算では、今年12月から来年3月までの4カ月間を閉鎖する予定で予算が組まれていましたが、それはどういう検討がなされた結果だったのでしょうか。そして、このたびの補正予算では一転し、閉鎖ではなく冬期間も現状のまま運営することに至りました。その理由は何かをあわせて企画調整課長にお聞きするものであります。

3点目は、来年度以降の運営についてですが、企画調整課長からは、現在のところ白紙であると聞いています。しかし、ただいま述べましたように、安全安心の根幹をなす長井ダムの大切さを後世まで引き継ぐには、拠点となるまなび館が必要であると考えますので、白紙という考え方が私には理解できません。財源は電源立地地域対策交付金を充当するのが適当だと私は思っております。少なくともこの交付金を児童センターの人件費に充てるよりはずっと適切であると思っております。

また、観光振興を重要視する長井市にとって、長井ダムやまなび館周辺を活用しない選択肢はないと思われますが、いかがでありましょうか。観光振興計画策定中の現在、計画の中に盛り込

む方向かどうかを観光振興課長に伺い、来年度以降の運営方針についてどうお考えかを市長に伺いますので、ご答弁をお願い申し上げます。

次の大きな項目、食のまちづくりについての質問に移りたいと思います。

皆さんは、8月29日が馬肉の日だということをご存じでしょうか。現在、長井商工会議所では全国展開プロジェクトと銘打って、馬肉と行者菜と米粉の3品を使った商品開発事業に取り組んでおられます。長井市における馬の歴史は、私たちの先人たちが、農耕馬として生活の一部として、時には食料として育てられました。竹田市太郎先生の著書によりますと、年に1回開催される馬まつりは、遍照寺に1,000頭もの農耕馬がお参りにくるほど盛大で、西置賜で一番にぎわう祭りだったと記載されています。しかし、現在ではその名残りはほとんどありません。名産品として県内外への目立ったアピールも活動も行われていないのが現状であります。市や観光協会、地場産のホームページやパンフレットを見てもそのとおりであります。

このような状況の中、長井商工会議所の事業がきっかけとなり、市民有志の発想から生まれたのが馬肉の日であります。神戸国際大学の中村智彦先生によりますと、馬肉で有名な熊本県も長野県も会津若松市も馬肉の日は制定しておらず、早く取り組んだほうがよいのではないかとアドバイスがありました。それに反応した若者を中心に、馬肉の日を勝手に制定しようと盛り上がりました。熊本の馬肉も仙台の牛タンも地元産はごくごく少数であるにもかかわらず、その土地の名物名産としてすっかり定着しています。ギョーザのまち、ラーメンのまちで成功している例を見ても、後づけのストーリーが立派に成り立っております。

一方、長井市の馬肉は、今では地元産ではないにしろ、長い歴史がありますので、名物名産として全国展開できる条件は十分そろっている

はずであります。市民有志の力は大きく、しかも成長しております。全国展開が実現するよう、行政として馬肉に着目し、ぜひ取り組むべきであると思いますが、いかがでありますでしょうか。商工振興課長にお聞きいたします。

また、農林課では、緊急雇用の事業を活用し、行者菜の商品開発に取り組んでいると思っております。行者菜は、ここ数年の地道な取り組み、生産者のご努力により存在感がぐんぐんと右肩上がりに成長しているようですが、今年度の事業によってホップ・ステップ・ジャンプまで一気に行くのではないかと、大勢の方々が期待しているのではないのでしょうか。

先週金曜日の8月28日新聞折り込みでは、行者菜を大々的にPRしていました。のぼりもあちらこちらで見受けられ、頑張っている姿が表に出てきたなあと感じられるようになりました。一部強引に商品開発を事業者依頼し、ブログに投稿されたというエピソードもあるようですが、ある意味そのくらいの強引さも必要なのではないかと頼もしくも思ったところであります。

そこで、現在進行中である行者菜の推進事業はどのような内容になっているのか、具体的にお聞かせいただきたいと思います。生産状況や今後の見込みもあわせて農林課長にお聞きするものであります。

さらには、米の消費拡大として米粉が注目されて久しいわけですが、長井市ではどのような状況になっていると把握していただけるでしょうか。あわせて農林課長にご答弁をお願いいたします。

最後に、市長にお聞きいたします。

市民活動の支援についてであります。

今、取り上げました事業は、緊急雇用や商工会議所の補助金で取り組まれている事業です。これまでも何度か指摘されているように、事業が終了したので終わりではもったいないと思うのは当然のことではないのでしょうか。事業に携

わった方、協力した方、共感を持って賛同した方などを中心に市民活動として成長していけるよう、長井市として具体的にバックアップする必要があると思いますが、いかがでありましょうか。あるいは、長井市の単独予算で事業化することも視野に入れていただきたいと思います。

広報ながいのコラム「もろみーさんがひとかじり」で言っているおいしいものが食べられるという評判を得る細工を市役所と市民が一丸となって仕掛けることができたらすてきなことだと思います。市長のお考えをお聞きし、壇上からの質問といたします。ご清聴ありがとうございます。（拍手）

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 我妻議員のご質問にお答えいたします。

議員からは、大きく2点いただきまして、私の答弁も2点それぞれお答え申し上げたいというふうに思います。

まず最初に、野川まなび館の利活用についてでございますが、我妻議員からありましたように、野川まなび館というのは、長井市の全面的な協力で、しかも地元平野、西根地区の皆さんのご理解があったからこそ、見事に完成したわけですが、それをどう生かすかということが、これから私たち長井にとってはせつかくの財産ですから、そういった意味では大変いいご質問をいただいたと思っております。

ちょっと結論のほうから先に行くみたいな感じなんですが、まなび館の来年度以降の活用の方針についてということだと思いますけれども、野川まなび館の活用については、調査、研究の委託中でありまして、イベントの開催と利用率の向上が図られております。まなび館を残した経過でございますけれども、国のほうでは、インフォメーションセンターとしてその役割が終わったということで、市で使うんだったら残します、使わなかったら取り壊しますということ

だったんですが、底地についても、後ほど経過があるかと思いますが、国に国土交通省に対する市の支援として、野川山入会共有地組合さんのご協力で、あの土地を私どもが購入して、それを国に貸すという方法をとりました。そのため、底地が長井市の土地でありますし、土地そのものは広大な土地が残るわけですから、もったいないということで、残していただくことにしましたけれども、しかし、相当な維持管理経費が生じます。今は長井ダムの防災センターの位置づけを国のほうで何とか理由づけをしていただいて、辛うじて半分ぐらいしか私どもが持つ必要がございません。

そんなことで、利活用の方法について具体的な目標がまだ定まらない中で、とりあえず今言いましたように、調査研究を今してるところということでございます。この秋には、ながい黒獅子大綱引き実行委員会主催の大綱引き大会がダムの堤体で開催されます。残念ながら去年はちょっと難しかったと。これは議員からもございましたように、最上川リバーツーリズムネットワークでは、10月6、7、8の3日間、百秋湖の遊覧を実施します。長井ダムや周辺施設を活用したイベント等が、市民皆様の力で始まってきております。さらには、10月28日、ながい百秋湖まつりを開催し、カヌー体験やトレッキングを企画しているところです。野川まなび館は、このようなイベントの拠点としての役割を果たす格好の位置にあるというふうに思っています。

先日、これは水源地域ビジョン推進会議のメンバーや地元子坂地区の三役の方々とまなび館の今後について話し合いを持ちました。そこでは、野川まなび館は、水源や森の入り口であり、いろいろな活用が考えられる。施設の理念、位置づけを明確にしなければならないんじゃないかという意見や、開館してから1年や2年ですぐ結果が出るものでもなく、もう少し長い目で

検討する必要があるなどの意見をいただいております。具体的なところはまだ詰められてませんが、引き続き調査研究、話し合いの場を設けることとなりました。

それから、観光振興計画については、後ほど観光振興課長のほうからもあるかと思いますが、観光振興計画の中でどういう位置づけにするかということについて、今いろいろ作業部会のほうを中心に意見をいただいているところでございますけれども、長井ダム、山岳観光の拠点として生かしていくということが重要だと思っておりますし、どのように活用するかはやはりいろいろなご指導、ご意見をいただきたいと思いますと思っております。

また、自分の案といたしましては、例えば今、NPOさんのほうに緊急雇用のほうを市で国の予算、県の予算をいただいて、2人分の人件費を見ているわけですが、やっぱりNPO自身としても何か収益を上げていかなければ、行政丸抱えではもたないだろうというふうに考えております。しかし、収益をどういうふうにして生み出すかということが非常に難しいと。カヌー体験とか百秋湖を生かしたいろんなものがあるんでしょうけども、私が共有地組合さんのほうと話してるのは、よく地元の皆さんおっしゃるんですが、相当道路がよくなったものですから、県外からいろんな方が山に入ります。やっぱりマナーの悪い人もいらっしゃるって、ごみを捨ててったり、あるいは貴重な植物あるいは山菜、キノコ、勝手にとっていくと。果ては、貴重なヤマメ、イワナ、こういったものも勝手にとっていくということで、かなり荒らされているという心配だそうです。

しかし、あのぐらい広いところで、共有地組合の皆さんについては、入山許可証っていいですか、山菜等々、あれを監視をお願いしてるわけですが、回り切れないということもあって、ちょっとまなび館の位置がもう少し

県道沿いだとよかったんですね。花作平山線の市道上にありまして、あと県道木地山線のほうと外れてるものですから、なかなか管理難しいんですが、何らかの方向で、ちょっと例えにはならないのかもしれませんが、例えば上高地とか、あるいは立山、黒部、ああいったところはマイカー宣言してるんですよ。国立公園に入る際、マイカーですと排気ガスを相当まき散らされると、あるいは貴重な動植物に影響を与えると、当然悪い人はとっていく人もいますわけですね。非常にそういったところで、制限してるんです、入り口で。

そういったところを野川まなび館のほうにそういう位置づけできないかと。なかなか制限どういうふうに加えるかって難しいかもしれませんが、県道と市道を通る人たちに一旦そこで入山許可証と、あるいは釣りをするときは内水面漁協あたりと話して、一日の入山権とか漁業権を売ると。それから、そこで一応喚起して、ごみは捨てないでくださいとか、そういったところの仕事をやってもらえれば、それなりのやっぱり市としても、あるいは水源地域をきちっと守る、これは長井市の何ととっても一番の貴重な宝ですから、そういったところをできないかということで考えております。これはまだ私の考えですんで、まだ詰めておりません。

あと、野川まなび館の隣にJVの現場事務所、長井ダムの現場事務所もあったんですが、あそこについては、オートキャンプ場っていう話もあったんですが、なかなかオートキャンプ場にするにしても、周りの方たちの同意とか、あと少し施設整備をしなきゃいけないということなどもありまして、あの広大な土地を何で生かすかということもこれからの大きな課題だと思っております。なお、いろいろご提言をいただければありがたいというふうに思います。

次に、2点目の食のまちづくりについてお答えしたいと思います。

食のまちづくりについては、私のほうは市民活動への支援についてということで、馬肉、行者菜、米粉を特産品にしようと、市民の皆さん頑張っておられると。市でももうちょっと力を入れろ、入れたらいいんじゃないかということなんです、市民のこういった取り組みについては、長井市の新しい魅力にもなり、新たな特産品になったり、観光客を呼ぶきっかけになる可能性もあると考えておりますので、市としても大変期待しております。しかし、どちらかというと、長井市の行政のほうは黒子に徹して、やっぱり市民の皆様を前面に立てていくという考えでございます。

馬肉の日の制定については、これは商工会議所で頑張っておられたわけですが、大変おもしろい企画だなと思いました。

行者菜については、実は議員もご存じだと思いますが、行者菜の課題としては、生産量をふやすのがなかなか難しいと。ただ、一旦生産しますと、何回も刈り入れって、収穫ができますので、それなりに収量は上がるんだそうです。しかし、生産とか流通の過程でいろんな問題が生じているものですから、今年度から、議会からのご承認をいただきまして、行者菜の産地化に向けて少し支援体制をとったところでございます。生産、流通、飲食関係者で構成する行者菜等産地化戦略会議というのを7月に立ち上げております。その中で、生産拡大、流通の開拓、加工品の開発、消費拡大など、各分野での取り組みを確認したところです。

本年度は、生産戦略としての生産拡大、出荷時期の調整に向けた新技術の検討、また販売戦略として農産加工品の売り込み、物産展への参加を、消費戦略としてはレシピの開発、試食会の開催、飲食店等への働きかけ、料理教室の開催などを行うこととしております。特に8月2日、3日に開催されたアグリフードEXPOでは、大変注目をされました。また、商工会議所

青年部でも、行者菜を使った商品開発に取り組んでいます。

この間の8月上旬、大田区のダイシン百貨店でも、私も応援に行きましたけども、行者菜、あつという間に全て売り切れましたけども、このような動きを全体を有機的につなげていきたいと思います。今月中に2回目の戦略会議を開催して、本年度後半の事業の確認と来年度の取り組みについて協議したいと思っております。

米粉の利用については、本市独自では取り組みを行っておりませんが、6次産業化を検討する上で、一つの材料と考えますので、県の取り組みなどを参考に検討したいというふうに思っており、また菜なポートなどでも米粉製品などを非常に好評販売中でございます。

今後のこうした皆さんの取り組みを長井市の新しい魅力にもなり、新たな特産品、観光客を呼ぶきっかけになるというふうに考えております。ぜひこれからも市民の皆さんの活動を通して、何が市としてお手伝いしたほうがいいのか、その辺をむしろ率直にお聞かせをいただきながら、なお一層の支援をしたいと思ひますし、馬肉を生かした物産を生産、販売するような店がふえたり、あるいは行者菜の生産農家がふえたり、米粉の活用のアイデアが出され、長井市の特産品としての可能性が出てきましたら、さらに市としての支援、特産品として市も協力し、売り出すための施策を検討したいと思っております。

まずは、かかわっている皆様の自分たちの収益につながるような製品開発等をみずからが行い、売れる商品に仕上げる必要がありますので、次のステップへの方法や地域特産品としての位置づけ、行政等がかかわった販売拡大等の事業展開につながるかと思います。今のところは、まちづくり基金も十分に活用できますので、ぜひご活用をPR、ご指導いただければありがたいというふうに思います。私のほう

は以上でございます。

○蒲生光男議長 遠藤健司企画調整課長。

○遠藤健司企画調整課長 我妻議員のご質問にお答え申し上げます。

まなび館及びその周辺の土地のこれまでの経過でございますが、ダム建設が始まって、平成12年3月に長井ダム周辺環境整備計画というものをつくっております。その際に、平野側から長井ダムへ向かう入り口に、長井ダム圏域の駅の機能を持つ水と森の駅の建設が提案されます。その後、長井ダム広報施設が建設されることとなり、平成13年3月に策定された長井ダム周辺環境整備計画基本計画では、ダムの完成後も引き続きダムエリアの主要拠点として長く利用される水の駅、森の駅の1号館として位置づけて、また広報施設の外部についても、ダム工事のJV事務所が解体された後は、広大な空間が出てくるわけで、そこについては長井水公園として魅力的な場所となるというふうな計画が策定されたものでございます。

その後、広報施設の建設に当たっては、長井ダム工事事務所は広報施設のあり方を検討するために、平成12年5月に、市民11人をメンバーとした市民ワークショップを設置して、自然への理解が深まる将来の長井市を考える施設とすることを基本理念とした提言を取り入れて、平成14年5月17日にまなび館がオープンしたところでございます。

平成23年3月には長井ダムは完成したわけですが、長井ダムのインフォメーション機能は、長井ダムの管理支所内のほうに移されました。広報施設、先ほど市長からも答弁ありましたが、ダム建設に附属してつくられたため、ダムの完成とともに解体される場合が多いんですが、野川まなび館は、先ほどお話しした経過もあり、ダム完成後も使用するというふうなことで建設した施設でございます。通常は国の普通財産として市へ売却となりますが、長井市としては、

ダムを生かした観光、地域活性化のための拠点施設は必要と考えておりましたが、買い取るまでの考えはございませんでした。

そこで、ダムの完成後も野川まなび館を存続させるために、国は野川防災センターとして位置づけ、建設工事関係資料及び重機格納庫として利用することで、維持管理を継続することとし、市は野川防災センターに関する維持管理協定を締結しまして、現在のホール、事務室、トイレ、展示室の一部を使用することとしました。敷地については、平成23年度に市で購入しましたので、土地は市、建物は国の所有となりますが、土地や建物の賃貸借料の契約がなく、お互い発生させないで、維持管理経費について協定に基づいて負担しています。

まなび館の土地でございますが、取得したまなび館の敷地及び周辺の土地ですが、面積はJVの事務所の跡地、また高蹴運動広場を含めまして、台帳面積で2万3,992.14平方メートル、購入の金額は1,981万9,795円で、野川山入会共有地組合様から購入しています。取得月日は昨年、平成23年の6月です。

現在までの運用の形態ですが、平成23年度は長井ダム水源地域ビジョンの推進と野川まなび館と周辺敷地活用に関する調査研究、また管理運営を県の緊急雇用を活用し、NPO法人最上川リバーツーリズムネットワークに委託して、2名の職員を配置しました。今年度、24年度につきましても、1年では成果は得られないということから、長井ダム及び周辺施設を活用した観光と環境教育という視点も取り入れて、県の緊急雇用事業を活用して、同じく最上川リバーツーリズムネットワークに委託して、2名の職員を配置しております。委託料は、平成23年度は542万円、平成24年度は638万6,000円でございます。

質問の2番目なんですが、当初予算では、冬期間、4カ月間を閉館する予算であったのが、

その検討はどのようなことであつたのかと。また、このたびの補正で冬期間も運営することに至った理由というようなことでございます。

冬期間の閉館でございますが、野川まなび館は、建設の経過から、電気、水道、浄化槽施設等、規模も大変大きく、精度も高い機能を持っております。その結果、光熱水費、浄化槽の保守等で、年間約180万円の支出が必要となっております。それに加えて、周辺の除草等の維持管理、また冬期間の除雪等の経費が必要になってます。

予算編成時、昨年秋遅くであります、24年度の冬期間の利用についてはなかなか見込めないだろうということ、また平成20年度から22年度までは、国の管理運営時も冬期間閉鎖していたということもありまして、平成23年度の冬期間の利用実績や冬期間の活用の調査研究の結果により、開館する必要があると判断されたときに補正をしようということになりまして、当面、11月までの開館の予算としたところです。

先ほど申し上げました国の運営であった20年度から22年度までの2年間の冬の閉館は、国交省の広報費の削減が原因での閉館でございました。

この24年度、冬期間開館するという判断になったわけですが、これについては、長井ダム水源地域ビジョン推進会議や最上川リバーツーリズムネットワークの努力によりまして、今年度は、先ほど市長からもご紹介ありましたが、野川溪谷の写真撮影会、やまがたのわき水、湧水展、星空の観測、星空散歩、夏休みの自由研究、宿題の相談会、魚つかみ大会などを企画いたしました、来館者数が確実にふえてる状況であります。冬期間についても、冬の星空の観測会、野川の植物を生かしたクリスマスツリーづくり、オリジナルスタンプづくりなどのワークショップ、またスノーモービル体験乗車などの雪を生かしたイベント、また熊野山のスノートレッキングなどを企画し、開催したいというようなこ

とで、来館者も期待されるというふうな提案をいただきました。

また、野川まなび館を拠点とした交流活動を通して、NPOやいろいろな団体の皆さんがだんだん使うようになってきてる状況があります。また、地区の皆さんからの動きも活発になってきてます。長井ダム水源地域ビジョンの目指す長井の人と地域を元気にするという目標に向かってきてるというようなことがございまして、予算措置をとったところでございます。

なお、来館者数でございますが、平成23年度、東日本大震災の影響もあったかと思いますが、通年で3,105人でした。ことしは8月末で3,067人。8月は1,000人を超えるというような活況を呈したところです。以上でございます。

○蒲生光男議長 平 正行観光振興課長。

○平 正行観光振興課長 我妻議員の質問にお答えします。

私には、長井ダムや野川まなび館を観光振興計画の中に盛り込むのかという1点でございます。

観光振興計画は第1回の策定委員会が7月5日に行われました。2回目を10月2日開催予定でございますが、その間、4回の作業部会を開催、もしくはこれからの開催を予定しております。つい9月3日の第5回作業部会でも、既存観光資源につきまして協議を深めたところでございます。その中でも、明快な方針計画にはまだ結論は至ってございませんが、長井ダムやまなび館、ながい百秋湖、その周辺の景観にすぐれたスポット、湖面広場、カヌー等ですね。そして、奥山のブナ原生林をはじめ、朝日連峰の山岳観光など、資源が豊富な場所の入り口にまなび館は立地しています。まなび館は長井ダム、山岳関連で生かせる施設であると考えているところです。

長井市の観光は、集客の多いものは、ご案内のとおり、桜、つつじ、あやめ、そしてイベン



トでは黒獅子、水まつりでございます。長井ダム方面は、冬期間以外は通年で利用者が絶えずあり、特に県外からの釣り客、もみじ狩り、登山客、市内近隣の住民は山菜とりなど、年間数千人規模で利用がございますので、考え方といしまして、先ほども出ておったようですが、まちなかの着地ポイントとして、例えばかわの駅とか長井駅があるとすれば、森の駅という考え方、森の着地ポイントとして生かしていければ、ますます利用が見込めるのではないかと考えているものです。

しかし、今の長井市の観光の状況を考えれば、まなび館単体のブラッシュアップの前に、いかに長井市全体に観光客を流入する仕組みを構築するか、これを最優先としなければならないと考えています。多くの観光客が入れば、まなび館の存在も当然、インフォメーションとしての必要性が高まり、森の駅としての必要性につながると考えているものです。以上でございます。

○蒲生光男議長 那須宗一農林課長。

○那須宗一農林課長 我妻 昇議員のご質問にお答えいたします。

行者菜、米粉の取り組みについてというご質問でございました。

行者菜の生産戦略では、平成23年の栽培面積30アール、出荷量4トン、出荷額で300万円でございましたが、平成27年度を目標として、栽培面積を80アール、出荷量15トン、出荷額で1,000万円ということで取り組むことにしているところです。

販売戦略では、本年度は各取引先の検討会の開催や花穂（かすい）って花穂って書くんですが、花穂の有効活用、物産展への参加、先ほど市長からありましたように、アグリフードEXPOに参加いたしました。あと、消費戦略としては、レシピの開発、試食会の開催、飲食店への行者菜料理提供の働きかけ、B-1グランプリの視察などを予定しているところです。

また、8月23日に置賜総合支庁主催の置賜食材産地見学会というのがありまして、その中で行者菜が取り上げられました。花作町の行者菜圃場の見学と料理の試食会を行いまして、参加者は料理店や生協などの関係者の方々でございました。この際のアンケートですが、行者菜を使ってみたい、既に使っているというのは、17人中16人ございまして、試食した料理について、コロッケは大変おいしかったと、あとギョーザにも大変合うと、ジュースもおいしいと、あと肉との相性がよいのではとの意見が寄せられたところでございます。

また、実際に行者菜を使う際に問題のあることとはという質問に対してですが、特に問題はないという方が6人、価格の面があるという方が4人、安定供給体制が7人、商品の配送体制が2人というふうな回答があったところです。

今後は、アンケートに出されました意見などを参考にして、来年度以降の取り組みに生かしていきたいと考えております。

米粉でございますけれども、市長からもありましたとおり、市としては具体的な取り組みは行っていないところです。ただ、農業技術普及課の事業として、米粉を使った加工品の技術講習会など開催しております。今後、6次産業化を検討する上で、大きな一つの部分になるというふうに考えておりますので、その面で今後の課題として捉えていきたいというふうに考えております。以上でございます。

○蒲生光男議長 中井 晃商工振興課長。

○中井 晃商工振興課長 それでは、馬肉の日につきましてお答えさせていただきます。

長井市は馬頭観音や馬街道がありますので、我妻議員からの質問の内容でもありましたように、非常に馬とかかわりの深かったまちでもございます。こうした長井市の馬とのかかわりを考えれば、大変おもしろい取り組みであったなというふうに考えております。特に今回の馬肉

の日の制定に当たりまして、キャラクターとしてバーニックをつくりましたり、また馬肉を使った料理を15店でいろいろ提供していただいたりした取り組みをしていただきました。ただ、15店のうち4店舗がお肉屋さんでありましたので、例えば市民の方や市外から来られた方が馬肉を楽しむという意味では、お店として食べることができましたのは、まだ11店舗でありますし、おそば屋さん等につきましては、たれとして馬肉を使ってるというところもあるようですので、これからもう少しこういったところを広げていただければというふうに思います。

特に、先ほど市長の答弁でもありましたように、やはり自分たちの収益につながるような製品開発をみずから行いまして、売れる商品に仕上げるということが非常に大事かと思います。行政が音頭をとりまして、馬肉の日を広げるということだけではなくて、やはりおいしい食品、おいしい馬肉料理をより多くつくっていただきまして、提供していただくということがまず大事なのかなというふうに考えております。

また、今回質問いただきました馬肉と行者菜と米粉でございますが、商工会議所のほうで地域力活用新事業という、全国商工会議所が補助金を出しております事業に認定されまして、300万円の予算で対応してるというふうにお聞きをしております。ただ、今回の馬肉の日の制定ですとか、いろんなキャラクター等の行事をしていただきましたけれども、今回の会議所の予算といいますのは、そういったものには一切使えないということで、今回、イベントをしていただきました皆様方は手弁当で対応していただいたということですので、そうした皆さんの意気込みも非常にこれから大きくなるのではないかなというふうに期待してるところでございます。

商工会議所のほうとも今後の会議所の事業等の考え方もお聞きいたしまして、これからどの

ような協力ができるのかというのを、少し会議所のほうとも協議をさせていただきたいと思えます。新しい長井市の特産品にもなる、あるいは新しいイベントにもなる可能性も秘めておりますので、ぜひこれからも頑張っていただきたいと思えますし、市のほうとしましても協力できることがありましたら、相談をさせていただきたいと思えます。

○蒲生光男議長 7番、我妻 昇議員。

○7番 我妻 昇議員 ご答弁ありがとうございます。

まず、まなび館のほうからなんですが、最後に観光振興課長がおっしゃったのが一番気にかかるんですが、森の駅などでまなび館を盛り上げる手もあるんだけど、まず市内に観光客を呼ぶことが先決だということは、やはり市長からも維持管理費の問題もあつたとおり、結局、25年度は運営はしない方針というふうに捉えてよろしいですか、それともまだ決まってないということなんでしょうか。結論はどうなんでしょうか。

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

私としては、何ともしてもしていきたいと。ただ、全部つぎ込みでは、やっぱりそんなに長くもたないと。何か収益、あるいは運営していく団体ですね、収益とか、あるいは市として引き続きあそこに相当なお金をかけるわけですから、これは本当、公共事業と一緒にすよ。一回やったらずっとやっていくわけですから、それなりのしっかりとしたビジョンを打ち立てていかないと、なかなか難しいのかなと。とりあえずは私の考えとしては、主管課のほうに、何か方向性をきちっと打ち出しながら、来年度以降もやっていけるような予算の要求はお願いしてるつもりです。あとは観光振興課長が言いましたように、長井ダムだけにいらっしゃるお客さんというのは本当に限られておりますんで、そ

の辺のところをどうするかというのが課題だと思います。以上です。

○蒲生光男議長 7番、我妻 昇議員。

○7番 我妻 昇議員 23年度の予算で2,000万円かけて、2万4,000平米買ったわけですね。先ほどの建物と土地代の相殺が少しはあるかもしれませんが、言ってみればそうですね。長井市の土地にしたんだということですので、やはりやっていくというのが基本中の基本ではないかなと思います。せっかくこれから観光振興計画を立てて、観光客を呼び寄せたいということで、本当にいいことだと思います。観光客はただ1点だけ、市内だけ興味あるんじゃないくて、長井市というのはどういうものか、あるいは長井市の周辺、西置賜や米沢含む置賜がどういうものなのか、山形県ってどういうところなのかってところで興味を持っていくのであって、市内だけに呼び寄せたところで、観光客の興味を引いてもらえないというふうに思っております。

これは観光振興計画にしっかりと長井ダム、まなび館を入れて、検討すべきであります。これから土地を買うということではありません。もう買っているんです。2,000万円も出して買っているわけですので、ここはしっかりと計画を立てて、今、頑張ろうとしてる方々がいらっしゃいます。地元の方も今までずっと周辺整備、こうあったらいいなということで、いろんな夢を描いていらっしゃった方もいます。そのほんの一部しか実現されないかもしれませんが、市としてしっかりと観光振興計画にのっとり、あるいは水源地域ビジョンとして予算立てをした上で運営していくべきだと思いますが、市長、もう一度ご答弁お願いします。

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

我妻議員のおっしゃるのはよくわかります。ただ、私としては、なぜあそこに2.4ヘクター

ルの土地を買わなきゃいけなかったのかと。とりあえず長井ダムに協力するということで買ったわけですね。それではだめなんじゃないかと。将来、あの長井ダムの用地として買った後、どういうふうに生かすか、全く計画がないわけです。長井ダム周辺環境整備計画というのが、市民の皆さんでつくっていただいたわけですね。この間も商工会議所主催の山形河川国道事務所長の講演会、かわのまちづくりの中でも、市民の皆様からも意見いただきました。それをお聞きしますと、かわと道の駅も実は周辺環境整備で出てきた計画なんですよ。だけど、それはそれで、今これだけもんでるわけですね。あそこもああいうふうにして買いましたけども、じゃあ何で使いますかというのが全くないですし、それを整備する際に単独事業でやらなきゃいけない。ですからこれから考えなきゃいけないですよ。そういったところをやっぱりぜひ模索すると。でも一旦買ってしまった以上は生かさなきゃいけないというのは、議員おっしゃるとおりですので、この辺はぜひいろいろ意見交換をしながら、いい方法を見出していきたいと思いますし、観光振興計画の中に盛り込むのは、長井ダムとかだけではなくて、当然古代の丘とか伊佐沢の大石ですとか、いろんなものを盛り込むわけですから、その中で大切な資源を生かす取り組みをしていきたいと思います。

○蒲生光男議長 7番、我妻 昇議員。

○7番 我妻 昇議員 しっかりと検討していただきたいんですよ。例えばかわと道の駅、河川緑地公園で検討委員会というのを立ち上げて検討してこられました。国の事業もあって、それはもうその方向で来たわけですのでいいんですが、せっかくこうやって土地がある、これからどうやって活用していこうかというときに、ぜひ、水源地域ビジョン推進会議でしたか、推進会議も含めてなんですが、きちっと検討会議と、検討委員会というようなことで明確に目標とい

うんでしょうか、目的を明確にした上で検討するというやり方が正しいのではないですか。河川緑地公園やかわと道の駅と同じように、検討委員会を立ち上げて検討してみてはいかがでしょうか、市長。

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 検討委員会を立ち上げることについては、ぜひ検討したいと。検討委員会を立ち上げるのを検討というのはおかしいんですが、ここのところは、やっぱり周辺環境整備の計画であったり、あるいは水源地域ビジョンの計画であったり、いろいろかかわりがある方たちが大勢いらっしゃいますんで、具体的にどうするかということを決めていきたいと思います。

また、何か活用できる補助事業があるかどうか、いろいろ探したんですが、どうも電源立地交付金、これしかないです。ただ、電源立地交付金っていうのは長井市全体にもらってるわけですから、あそこに使うためにもらってるわけじゃないですね。野川第1発電所とか、そういったところとか、あと、確かに長井ダムの固定資産税部分は入っておりますが、長井ダムの協力として、例えば水を買ってる契約をしたりとか、あるいはさまざまな市としてもお金をかけてきてますんで、ですから市全体にいただいているものだというふうに思っておりますので、できるだけ単独事業はやっぱりやるべきではないと。スキー場はしょうがないというふうに思いますが、そのように考えています。

○蒲生光男議長 7番、我妻 昇議員。

○7番 我妻 昇議員 電源立地地域対策交付金は440万円ですね。それを全額児童センターの職員人件費に充ててるわけなんで、その一部、先ほどの話ですと、180万円プラス草刈り代プラス除雪費ということですので、雪の量にもよりますけれども、250万円として、440万円のうちの250万円をまなび館に充てるんだと、まず最低限ですよ、最低限。その後に、収益事業は

どのようにするのかというのは今後の検討なわけですので、そこが可能なんじゃないですか。440万円全部使うんじゃないで、そのうちの250万円程度ということであれば、いろんなことに使ってるということになるんじゃないですか、市長。

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

電源立地地域対策交付金の使い方については、またいろいろところで検討しなきゃいけないと思いますが、やっぱりスキー場の整備でまだまだお金もかかりますし、今までは財政が厳しいということもあって違うところにも使わせていただきましたが、今後どういう使い方がいいかについては、こちらもいろいろと意見をいただきながら決めていかなきゃいけないというふうに思います。

○蒲生光男議長 7番、我妻 昇議員。

○7番 我妻 昇議員 まず、次の質問もありますので、まなび館が、今後も長井ダムの環境整備の拠点として、あるいは観光の拠点としてしっかりと運営されていくことを願うところでございます。

馬肉なんですけれども、行者菜も米粉もいろいろ言いたかったんですが、馬肉で、今回市民の本当に有志の方でこうやってキャラクターを無料でというんでしょうか、全く予算なんかも関係なくつくってくれた方がいて、しかもかぶり物、着ぐるみ全部じゃないんですが、頭の部分だけ1万円以内で、もう5,000円ぐらいで手弁当でつくってくれたり、そうやって放送局4社でしたっけ、4社に取り上げられて長井市をPRしたと。これは本当に1カ月そこそこのいわゆる市民の力でなし遂げたものでありまして、その後も大変反響があって、もっと続けていこうと、長井市の名産、特産になるんじゃないかということで、頑張ろうというふうに決意を新たにしていっぱいます、皆さん。

市のほうにしていいただきたいというのは、何もお金を頂戴なんていうことでなくて、例えば「8月29日を馬肉の日に制定しました」と、ホームページで勝手に制定しましたというようなことを公表していただいたりですとか、あるいは、ほんのちょっとした経費で構わないと思うんですが、それはまちづくり基金に応募すれば、それで済むかもしれませんけれども、何かしらの事業としての経費をいただくこともあるかと思いますが、あとはPRの面で協力するとか、いろんな面で市民活動が盛り上がりを見せているときに、市もきちっとバックアップしてるんだよと、黒子という市長は言い方をしましたが、きちっと支援してるんだよという姿勢を見せていただければ、さらにまた活動に拍車がかかるのではないかなというふうに思っておりますので、もう一度市長からお願いいたします。

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

我妻議員おっしゃるとおり、市としてもできる限りの支援はもちろん、そういう企画は我々もかかわって、市でもやってるよと言いたいです。でもやっぱりそういうのは若い人たちが中心で、行政はあんまり表に出るべきじゃない。だけど、しっかりと支えるということが私は大切だと、それが本来の行政のやり方で、こういった若い人たちがどんどんやることについてはすべきだと、そういうふうに思ってます。一方で、やっぱり行政が前面に出なきゃいけない部分もありますので、そこのところはいろいろ対応したいなと思います。

なお、「ぼくらの文楽」なんかも同じスタンスなんですけども、いろいろお願いできれば、その協力は惜しまない、必要だったらお金も出したい、そのように思ってますので、ぜひ我妻議員中心にそういった方々のいろんなかわりがあると思いますので、なお一層のご活躍をお

願いたいと思いますし、我々としても全面的にいろんな支援をさせていただきたいと思います。

○蒲生光男議長 7番、我妻 昇議員。

○7番 我妻 昇議員 下手に補助金をもらうと、活動が収束するなんていうこともあって、お金がないから頑張るという気持ちになるという逆説的な話もありますので、そこにはこだわらないんですが、しっかりサポートしていただきたいなというふうに思います。

具体的にこういうお願いされたんですよ、ある方から。「バーニック・ナガイ」というキャラクターなんですけど、これ実際学生さんがその役目を果たしていただいたんですけども、そういう方に特別市民権というんでしょうか、何というんでしょうか、住民票を与えるってあるんですね。今ゆるキャラとか、熊本市ではくまモンなんていうのがあったり、ひこにゃんとか、米沢市にもいろいろありますよね。最近では、南陽市ではアルカディオオンとか、例えばそういうところに住民票を交付するという自治体のいきな計らいですよ、そういったところで協力していただけないかという具体的なお願いもあったんですが、市長、お考えいかがでしょうか。

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

多分そういったところは、キャラクターをつくったところが市に働きかけて、ぜひということになったと思うんです。我々のほうでは例えば企画調整課か、みずから向こうにその方たちに言って、ぜひ住民票を発行させてくださいとは多分ほかのところも言ってないはずなんです。ですからぜひいろいろ言っていただければ、市としてはもちろん努力をして、そういったことでPR一緒にしたいというふうに思います。

○蒲生光男議長 7番、我妻 昇議員。

○7番 我妻 昇議員 行者菜もしかりなんです

けれども、市民の本当の熱い思いが、先ほどは300万円から1,000万円の出荷を目指すという話もありました。そういった活動がますます盛んになって、長井市のこれは食のまちづくり、観光のまちづくりはもちろんいいんですけども、食のまちづくりが一層盛んになって、全国の各地から長井市に訪れる方がふえればいいなというふうに思いながら、質問を終了させていただきます。ありがとうございました。

### 梅津善之議員の質問

○蒲生光男議長 次に、順位9番、議席番号2番、梅津善之議員。

(2番梅津善之議員登壇)

○2番 梅津善之議員 9月定例会の一般質問、最後の質問になりました。柄にもなく夏風邪を引きまして、声が聞きづらいと思いますが、一生懸命やりますので、よろしくお願いいたします。

通告に従いまして、質問したいと思います。

1番目の都市再生整備計画についてということで質問させていただきます。

まず一番最初、3月定例会から河川緑地公園の購入費及び調査設計費、6月はコンサルタントへの委託料など、少しずつ明らかになっていく都市再生整備計画の全体像をいつも予算から出てくるということに、私自身、非常に納得できないでいます。本来こういう大切な大きな事業は、どおんと全体像を明らかにして、議会もそうでしょうし、市民や、たくさんの方からいろいろな意見をいただいて進めるべきだなと私自身は思っております。この進め方についてはさまざまなことがあると思いますが、私はそのように思っております。将来負担のかからない長井市を目指していくためにも、多数の方面か

らいろいろな意見を聞いて、そして具体的に詰めていくという形をとることが大切じゃないかなと常々思っております。

2番目の、市民の方のさまざまな要望より都市再生整備計画を優先するのはなぜかと、小さなところから道路を直してください、ここを拡張してください、歩道をつけてください、水路をつけてくださいと、さまざまなお願いが市民から出されているにもかかわらず、多額の予算を、補助金をあてにしての事業ではありますと思いますが、都市再生整備計画を最優先にいく、当然市内の活性化も含めてというのは十分にわかるんでありますが、何もこんなに急いである必要は私はないと考えておりますし、国から認可されたから何としても予算づけをして進めていくんだなんていうことではなくて、やっぱり市民の方の合意のもとで進めていく、それが何より市政運営の基本ではないかと思っております。ぜひその辺は市長にお伺いしたいと思っております。

3番目、計画変更はあるのか、するかしないかを問う前に、場所を、ここでいいとかあそこでいいとかという話を多くの議員からされていると思いますし、例えばフラワーガーデンは要らないとか、いろいろな話があると思います。にもかかわらず、今定例会では調査設計費などを予算の中に上げてこられておりますし、いろんな議論をする前に是か非を問わなければならないという議員の気持ちも、ぜひ市長にはわかっていただきたいと思いますし、その辺をよく考えていただきたい。変更はあるんだと言いながらも、やっぱりここしかないとかしか聞こえてきません。

私の私案を一つ、二つ申し上げさせていただければ、いろいろな形で市民からの要望の、例えば何年来のお願いの致芳橋を早急に実現し、成田の工業団地などにも光を当てるという意味も含めて、そこに道の駅やかわの駅を持ってい